

一貫コース 推奨コース

産婦人科

#1: 日本産科婦人科学会は医師キャリア5年目での専門医受験を初期臨床研修制度導入後も変更していませんが、初期臨床研修後実質3年目での受験は、専門医と呼ぶには明らかに経験が不足していると指摘されています。当科は、1年でも早い産婦人科の専門教育の開始が好ましいと考えているため、産婦人科への進路を決めている方には、産婦人科関連科限定の本プログラムを推奨します。

#2: 本プログラム終了者が本学の産婦人科専修医となった場合は、十分な期間の産婦人科研修を実現できるため、産婦人科の基本的な研修に加え、翌年から本人次第で、よりadvanceな産婦人科専門領域の研修へも門扉を開いています。

#3: 地域-大学循環コースでの推奨プログラムと比べ、地域医療の期間のために小児科研修がなくなっていますが、周産期医療にとって小児科学の研修は必要です。そのため、翌年の専修医教育プログラムには新生児医療研修を義務づけています。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域	精神	麻酔		産婦(産科2ヶ月, 婦人科2ヶ月)				関連科(自由選択)			
		産婦人科医療に手術は必須であるので、最低限2か月間の麻酔科研修を義務とします。		産科と婦人科を2か月ずつ研修します。産科では周産期医療と生殖医療を学び、婦人科では腫瘍医学と女性医学を学びます。原則的に専修医1年医(ひとつ上の学年)にマンツーマンでアattendして研修するため、本学産婦人科の専修医教育を間近				放射線診断科、病理診断部、漢方医学センター、内科など、産婦人科医療と密接な関連科で臨床の幅を広げてみては。			
<p>ストレスの多い現代においては、当科にかかる女性の中には、精神・神経科も併診しているケースは少なくないため(うつ、神経症など)、専門医療は難しいですが初期対応などを研修することは、将来の産婦人科医にとっても極めて有意義です。</p>											